

特106  
336

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90<sup>18m</sup> 1 2 3 4 5

始



特106  
336

朝禮拜式及聖晚餐禮典執行順序

# 朝禮拜式及聖晚餐禮典執行順序

## 第一 朝禮拜式執行順序

(始めに聖靈降臨の讚美歌を誦ふも可也會衆は起ち會師は聖卓の側に立ちて左の如く云ふべし。)

聖父と聖子と聖靈の聖名によりて。

(會衆は左の如く誦ひ又は唱ふべし。)

アーメン。

(次に左の懺悔をなすべし。)

### 懺悔

主にありて愛する兄弟姉妹よ我等眞心を以て聖父な

る神の聖前に來り、我等の罪科を懺悔し、其恕赦を、主イエスキリストの聖名によりて希ひ奉るべし。

(會師會衆共に跪き、あるひは立ちて次の言を誦し又は唱ふべし。)

會師 我等の佑助はエホバの聖名にあり。

會衆 エホバは天地を創造り給へり。

會師 我謂らく我が愆をエホバに言顯はさんご。

會衆 主は我が罪科の邪曲を宥し給へり。

(次に會師は云ふべし。)

我等を創造り我等を贖ひ給ひし全能の神よ、我等生れながら罪科ありて潔きことなく、且つ我等思念と言語

ご行爲を以て、罪科を犯し、ごを謹んで懺悔し奉る。故に我等主イエスキリストの功績に因りて主の恩恵を求め、其の限量なき憐恤に依り頼み奉る。

(會衆は會師と共に云ふべし。)

我等に代りて死する爲に、唯一の聖子を與へ給ひし最も憐み深き神よ、願くは我等を憐み聖子に因りて凡ての罪を赦し給へ又聖恵を以て無窮生命に到らん爲に、聖靈に依りて我等に益すく、深く聖旨を曉らせ、又常に聖語に應順はせ給へ。此等の祈禱を主イエスキリストに依りて献げ奉る。アーメン。

(次に會師は立ちて唱ふべし。)

天の父なる全能の神は我等を憐み我等に代りて死する爲に其の獨子を與へ給へり。而して彼に因りて我等の罪を悉く宥し給ふ。主は又其の聖名を信ずる人々に神の子と成らん爲に權力を與へ、且つ聖靈を與へん。約し給へり。故に信じて洗禮を受る者は救はるべし。主よ願くは此の恩恵を我等に與へ給へ。

(次に會衆は唱ふべし。)

アーメン。

(次に會師會衆共に當日の讚美頌を謠ひ又は唱ふべし、但し特禱の終るまで皆續いて立つべし。)

讚美頌

(讚美頌とグロリア、パトリは唱歌隊之を謠ふも可也。讚美頌は會師之を謠し、グロリア、パトリは會衆之を謠ひ、或は誦するも可也。讚美頌の代りに詩篇若くは讚美歌を用ふるも可也。)

グロリア、パトリ

聖父と聖子と聖靈に榮光あれ。元始にありし如く現今もあり世々無窮あるべし。アーメン。

キリエ

(キリエは會師會衆共に謠ひ又は唱ふるも可也。或は始に會師之を誦し、會衆之に和して謠ひ又は唱ふるも可也。)

也なり

主しゅよ、憐あはれみ給たまへ。

キリストよ、憐あはれみ給たまへ。

主しゅよ、憐あはれみ給たまへ。

(次に左のグロリア、イン、エキセルシスを誦うたふべし。但たゞし祝日及び聖餐の禮典を執行ふ時の外は、讚美歌を代用するも可也)

グロリア、イン、エキセルシス

(會師は唱ふべし。)

天上いとたかきごころには、榮光えいこう神かみにあれ。

(會衆は誦ふべし。)

天上いとたかきごころには、榮光えいこう神かみにあれ。地ちには平安やすみ、人ひとには恩澤めぐみあれ。全能ぜんのうの父ちち、天てんの王おう、主しゅなる神かみよ、我等われら主しゅを頌ほめ、主しゅを讚たへ、主しゅを拜おがみ、主しゅを崇あがめ、主しゅの大おほなる榮光えいこうの故ゆゑに、感謝かんしゃし奉たてまつる。

神かみの生うみ給たまひし獨子ひとりご、主しゅイエスキリスト、世よの罪科つみを除のぞき給たまふ。神かみの羔こひつじ、聖父せいふの聖子せいこ、主しゅなる神かみよ、我等われらを憐あはれみ給たまへ。世よの罪科つみを除のぞき給たまふ。主しゅよ、我等われらの祈禱いのりを享うけ給たまへ。聖父せいふの右みぎに座ざし給たまふ。主しゅよ、我等われらを憐あはれみ給たまへ。キリストよ、主しゅのみ聖せいなり、主しゅのみ王わうなり、主しゅのみ聖靈せいれいと共に聖父せいふの榮光えいこうの中うちに在いまして最もつとも高たかし。アーメン。

願ねがくは主しゆ汝なんぢら等らと共ともに在いまさんさんここを。  
(次に會くわい師しは唱となふべし。)

願ねがくは主しゆ汝なんぢの靈れいと共ともに在いまさんさんここを。  
(會くわい衆しゆうは謠うたひ又は唱となふべし。)

我われ等ら祈いのるべし。  
(會くわい師しは唱となふべし。)

特とく禱たう  
(次に會くわい師しは當その日ひの特とく禱たうを唱となふべし。)

特とく禱たう終つひりて會くわい衆しゆうは謠うたひ又は唱となふべし。  
アーメン。  
(次に會くわい師しは當その日ひの使し徒と書しよを讀よむべし。使し徒と書しよを讀よむ前まへ

に聖せい書しよの他たの所ところを讀よむは可かなるも當その日ひの日に課くわいを省はぶくべからず。會くわい師しは使し徒と書しよを讀よむ前まへに左さの如ごとく報ほう告こくすべし。  
……日にちの使し徒と書しよは……書しよ第だい……章しやう……節せつより始はじまる。

當その日ひの使し徒と書しよ  
(使し徒と書しよを讀よみ終つひれば會くわい師しは云いふべし。)

使し徒と書しよは終つひる。  
(次に會くわい衆しゆうはハレルヤを謠うたひ又は唱となふべし。但たゞし受じゆ難なん節せつには之これを除のぞくべし。)

ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ。  
(ハレルヤの代かりに左さの聖せい節せつ詞しを謠うたふも可か也なり也また。又またハレル

ヤに續けて詩篇若くは讚美歌を謠ふも可也。

ハレルヤと聖節詞

降臨節

ハレルヤ。エホバよ汝の憐憫と仁慈とは古昔より絶ゆることなし。エホバよ此れを思ひ出し給へ。ハレルヤ。

現異邦節

ハレルヤ。諸々の國よ、主を讚めまつれ。諸々の民よ、主を稱へまつれ。そは我等に賜ふ其の憐憫は大なればなり。エホバの眞實は永遠にたゆることなし。

受難節

キリストイエスは自己を卑くし、死に至るまで順ひ、十字架の死をさへ受くるに至れり。

復活節

ハレルヤ。我等の逾越、即ちキリストは屠られ給へり。ハレルヤ。

聖靈降臨節

ハレルヤ。なんぢ聖靈を出し給へば、百物皆創造らる。如此してなんぢ地の面を新にし給ふ。ハレルヤ。

三位一体主日より降臨節に至る。

ハレルヤ。願くは汝の憐憫に従ひて、汝の僕を待遇ひ給



へ。我われに汝なんぢの法律おきてを教をしへ給たまへ。我われは汝なんぢの僕しもべなり。我われに智慧ちゑを與あたへて、汝なんぢの證詞あかしを知らしめ給たまへ。ハレルヤ。

(次に會師くわいしは當日そのひの福音書ふくいんしょを報告ほうこくすべし)

聖せいなる福音書ふくいんしょは……傳第でんだい……章しょう……節せつより始はじまる。

(會衆くわいしゅうは謠うたひ又は唱となふべし)

願ねがは主しゅに榮光さかえあらんことを。

(次に會師くわいしは其日そのひの福音書ふくいんしょを讀よむべし)

當日そのひの福音書ふくいんしょ

(福音書ふくいんしょを讀よみ終はれば會師くわいしは云いふべし)

福音書ふくいんしょは終はる。

(次に會衆くわいしゅうは立たちて謠うたひ又は唱となふべし)

願ねがはキリストに頌榮ほまれあらんことを。

(次に會師くわいし會衆くわいしゅう共にニケヤ信經しんきやう若しくは使徒信經しとしんきやうを誦しょうし

又は謠うたふべし。但たし聖餐禮典せいさんらいてんを執行おこなふ時には、ニケヤ信

經きやうを用もちふべし)

ニケヤ信經しんきやう

我われは惟一ひとりの神かみ、全能ぜんのうの父ちち、天地てんちこ凡すべて見みゆる物ものこ、見みへざる物ものの創造つくり主ぬしを信しんず。

我われは惟一ひとりの主しゅ、イエスキリストを信しんず。主しゅは萬世よろづよの前に

聖父せいふより生うまれたる惟一ひとりの聖子みこ、神かみよりの神かみ、光ひかりよりの光ひかり、

眞正まことの神かみよりの眞正まことの神かみ、造つくられずして生うまれ、聖父せいふこ一いつ

體たいなり。萬よろづのもの主しゅによりて造つくられたり。主しゅは我われ等ら人類じんるい

のため、又我等を救はんが爲に、天より降り、聖靈によりて處女マリアより肉體を稟け、人性を取り、我等の爲にポンテオピラトの時十字架に釘けられ、苦楚をうけ、葬られ、聖書に應ひて第三日に甦り、天に昇り、聖父の右に坐し給へり、又榮光を以て再び來り、生る人と死る人とを審判き給はん。其の國は終ることなし。

我は聖靈を信ず。聖靈は生命を與ふる主、聖父と聖子より出で、聖父と聖子と共に拜み崇められ、預言者によりて語り給ひし主なり。我は使徒等より傳りし、惟一の聖なる基督教會を信ず。罪科の恕赦を得る惟一の洗禮を

信認す。死し人の復活と來世の生命とを望む。アーメン

使徒信經

我は天地の創造主、父なる全能の神を信ず。

我は、其の獨一子、我等の主イエスキリストを信ず。主は聖靈によりて胎り、處女マリアより生れ、ポンテオピラトの時苦楚を受け、十字架に釘けられ、死て葬られ、冥府に降り、第三日に死人の中より甦り、天に昇り、父なる全能の神の右に坐し給へり。彼處より來りて生る人と死る人とを審判きたまふべし。我は聖靈を信ず。又聖なる基督教會即ち使徒の交際、罪

科の恕赦、身體の復活、窮なき生命を信ず。アーメン

(次に會衆は讚美歌を誦し、會師は講壇に上り、誦し終りて説教すべし。)

説教

(説教終りて會衆は立ち、會師は唱ふべし。)

願くは、神より出て人の凡て思ふ所に過る平安、爾曹の心ご意を、キリストイエスによりて守り給はんことを。アーメン

(次に詩篇の一つを誦し終りて會衆は坐すべし。左の詩篇の一つを用ふるか又は他の適當なる詩篇を用ふるも可なり。)

詩篇

第一

神の要めたまふ祭物は、碎けたる靈魂なり。神よ、爾は碎けたる悔し心を藐しめ給ふまじ。願くは、聖意に順ひてシオンに祝福し、エルサレムの石垣を築き給へ。其時ならんち義の供物ご燔祭ご全き燔祭ごを悦び給はん。

第二

嗚呼、神よ、我爲に清き心を造り、わが衷に直き靈を新に起し給へ。我を靈前より棄て給ふなかれ。汝の聖き靈を我より取り給ふなかれ。汝の救の喜を我に歸し、自由の

靈を與へて我を保ち給へ。

(會衆中より献金を集めて會師に呈し會師は之を受け  
て聖卓の上に置くべし。若し會衆中に特別の祈禱代願  
感謝を望むものあらば茲にて之を報告すべし。又會員  
中に就眠者あらば報告すべし。次に總禱をなすべし。左  
の總禱を用ふるも可なり。但し聖餐の禮典を執行はざ  
る時は、歎願又は特禱より選べるものか、其の他適當な  
る祈禱をなすも可なり。)

總禱

最憐恤深き全能の神、主イエスキリストの父よ、我等に  
聖恩を垂れ、殊にその聖子を與へ、また聖旨と聖恵とを

顯現し給ひしことを感謝し奉る。願くは我等の心に主  
の聖語を植ゑ、我等正直に之を保ち、耐忍びて善事を行  
ひ、實を結ぶことを得さしめ給へ。

願くは普き基督教會及び其の教師牧師を護り、彼等を  
して聖語の聖き教理を保ちてます。神を信じ、ます  
く人を愛する心を起さしめ給へ。

願くは凡て權威を有てる者、殊に天皇陛下諸大臣及び  
其他諸司百官に、健康と幸福とを與へ、且つ我等が敬虔  
と正直とを以て安穩に世を送らんが爲に、彼等が義を  
支持ち惡を防ぎ且つ罰し、聖旨に従ひて統治るの聖恵

を彼等に與へ給へ。

願くは我等に敵對する者が其の怨恨を棄て、平和に我等と相交らんが爲に、彼等の心を翻し給へ。

願くは艱難、貧苦、疾病、出産の苦痛ある者、死に瀕する者、其の他の不幸ある者、殊に主の聖名と眞理との爲に苦しむ者を、聖靈を以て慰藉め、彼等をして此等の苦難は主の慈愛深き聖旨の顯現として、之を受け、かつ耐へ忍ばしめたまへ。

最と憐み深き父よ、我等は主の義しき怒と種々の罰とを受くべき者なれども、願くは我等の若き時の罪科と

多くの愆を聖心に留め給はず、深き聖恩と憐恤とを以て、身体と靈魂の凡ての害と危難とより我等を守り給へ。願くは異端、邪說、戰爭、殺傷、疫病、洪水、火災、暴風、凶作、饑飢より、又心の痛みと、聖恵を得べき希望を失ふことと、無慘の死より我等を護り、且つ艱難に際し、主が凡ての人、殊に信ずる者の最も近き救主たらんことを、願くは四季折々に、地の必要なる産物を用ふることを得る爲に、之を護り給へ。願くは青年の基督教主義教育と、海陸に於ける凡ての正當なる職業と、凡ての純潔なる藝術並に有益なる智識とに成效を與へ、是等に主の

祝福を蒙らせ給へ。

(特別の祈禱代願感謝あらば、茲にてなすを得。)

神よ願くは此等と其の他の願ふべきものを、獨一の聖子我等の主にして救主たるイエスキリストの酷しき苦楚と死の功績によりて我等に與へ給へ。主は聖父と聖靈と共に永遠に一の神にして世々に活在して統御め給ふ。

(次に會師會衆共に主の祈禱を献ぐべし)

天に在す我儕の父よ願くは爾名を尊崇させ給へ。爾國を臨らせ給へ。爾旨の天に成る如く地にも成せ給へ。我

儕の日用の糧を今日も與へ給へ。我儕に罪を犯すものを我儕がゆるす如く、我儕の罪をも免し給へ。我儕を試探に遇せず。悪より拯出し給へ。國と權と榮は爾の窮なく有ち給ふ所なればなり。アーメン。

(次に讚美歌を誦ふべし。聖餐の禮典を執行はざる時は、頌榮の歌を誦ひ、會師聖卓の側に立ち祝禱をなし祝禱終りて會衆黙禱すべし。)

祝禱

願くはエホバ汝を恵み汝を護り給へ。願くはエホバ其の顔を以て汝を照し汝を憐み給へ。願くはエホバ其の

顔を上げて汝を顧み汝に平安を給はんことを。

(會衆は謠ひ又は唱ふべし)

アーメン。

第二 聖晚餐禮典執行順序

(會衆總禱後の讚美歌を謠ふ間に會師聖卓に進み行き  
て聖餐器を取揃へ、聖禮典執行の準備をなすべし。謠ひ  
終りてアグナス、デイの終るまで會衆立つべし。)

奠辭

(會師唱ふべし)

願くは主汝等と共に在さんことを。

(會衆謠ひ又は唱ふべし)

願くは主汝の靈と共に在さんことを。

會師 汝等の心にて主を仰げよ。

會衆 我等仰ぎて主を望まん。

會師 我等神に感謝し奉らん。

會衆 そのは正當にしてなすべきことなり。

會師 至聖き父、永遠に在す全能の神よ、何時何處にて

も主に感謝し奉るは眞實に正當にしてなすべき務なり。

(續いて聖節適用語を讀むべし適用語あらざれば直に

「故に我等天使と……」を讀むべし。

聖節適用語

降誕日

道肉體ご爲りし奧義に因りて主は其の榮光を新に啓  
示し給へり。是れ我等をして聖子に由りて主を見未だ  
見ざる所のものを愛せしめ給はんが爲なり。(故に我等  
天使と……)

受難節

主は十字架の木のの上に於て、救拯を人類に與へ給へり。  
是死の起りし所に生命も亦起り、一たび木を以て勝利  
を得し者は又我等の主イエスキリストに因りて木に  
て征服せられんが爲なり。(故に我等キリストによりて  
天使と……)



復活節

殊に聖子我等の主イエスキリストの尊き復活の故に  
より主を頌め奉る。聖子は眞實の逾越の羔にして我等  
のために犠牲へられ、世の罪を除き、其の死を以て死を  
亡ぼし、其の復活を以て窮なき生命を與へ給へり、故に  
我等天使……)

昇天日

殊に我等の主イエスキリストの昇天の故により感謝  
し奉る。聖子は復活の後、公明に其の弟子達に顯はれ、其  
の眼前にて天に昇り給へり。是は我等をして彼の神た

る性質に與らしめんが爲なり。故に我等天使……)

聖靈降臨日

主の愛しみ給ふ聖子、我等の救主イエスキリストは、天  
に昇りて神の右に坐し、約束によりて選ばれし弟子等  
に、此の日、聖靈を灑ぎ給へり。これに因りて全地は大な  
る喜悅をなし、我等も亦感謝し奉る。故に我等天使……)

三位一体祝節

主はその生み給へる獨子及び聖靈と共に、唯一の神に  
してまた唯一の主なり。我等は唯一の眞の神を三位に

して一体稜威等しき主として拜み奉る。故に我等天使  
ご……)

(適用語に續て直に左の如く唱ふべし。)

故に我等天使ご天使の長及び天の會衆ご共に、主の尊  
き聖名を敬崇め常に主を頌讚て云はん。

(次に會師會衆共にサンクタスを謠ひ又は唱ふべし。)

サンクタス

聖なる哉聖なる哉萬軍の神主の榮光天地に充てり至  
高き所にホザナよ。  
主の聖名によりて來るものは幸福なり。

いと高き所にホザナよ。

(次に會師左の獎勵を爲すべし。)

獎勵

愛する兄弟姉妹よ、我等の主イエスキリストの聖餐に  
陪せんご欲せば、使徒パウロが勧めし如く深く自らを  
反省すべし。そは此の聖餐典は、謙遜なる心を以てその  
罪を懺悔し且つ饑渴くが如く義を慕ふ者に、慰藉ご勢  
力を與へんが爲に主の設け給ひし聖奠なれば也。  
然るに我等斯く自らを反省する時は、己が力にて脱れ  
難き罪ご死ごの外何物をも見出さざるべし。故に我等

の主イエスキリストは憐恤を垂れ、我等の爲に神の聖旨と律法の命ずる所を全ふせんとして自ら人性を取り、我等に代りて我等の受くべき死と苦さを受け給へり。我等をして此の事を深く信じ且つ信仰に因りて強められ、快く聖旨に従はしめんがために、主は此の聖餐の禮典を設け給へり。主はこの聖餐によりてその體と血を糧として我等に與へ給ふなり。故にキリストの聖語を堅く信じてこの麵包を食ひ此の杯より飲まば、キリストはその人に居り其の人はキリストに居りて、窮なき生命に與ることを得るなり。

我等も亦此の聖餐を守りてキリストの死を表示し、我等の罪の爲に賣され、我等が義とせられんが爲に復活り給ひしことを記憶え奉るべし。又我等これによりて真心よりキリストに感謝し、十字架を負ひて主に従ひ且つ其の命令を守り、キリストの我等を愛し給ふ如く我等互に相愛すべし。そは我等皆この一つの麵包を食ひ此の一つの杯より飲むを以て、共に一つの麵包一つの體と成ればなり。

(次に聖卓に向ひて唱ふべし)

我等祈るべし。

天てんに在まします我われ儕らの父ちちよ、願ねがくは爾み名なを崇あがめさせ給たまへ。爾み國くにを臨きたらせ給たまへ。聖みこと旨ころの天てんに成なる如ごとく地ちにも成たらせ給たまへ。我われ儕らの日用にちようの糧かてを今けふ日ふも與あたへ給たまへ。我われ儕らに罪つみを犯をかすもの

アーメン。

(次に會師は唱ふべし)

われらの主しゆイエスキリスト賣わたさるゝ夜よ、麵めん包ぱんを取とり此こ

(次に會衆は謠ひ又は唱ふべし)

の時とき皿さらを手てに執とるべし。謝しやして後のちこれを擘さき、弟て子したち  
 に與あたへて曰いひけるは、取とりて食しよくせよ、此これは爾なん曹ぢらの爲ために與あた  
 ふる我わが躰からだなり、爾なん曹ぢら如か此こおこなひて我われを記おぼ憶ええよ。食しよくし  
 て後のちまた杯さかづきをこり、此この時とき杯さかづきを執とるべし。謝しやして彼かれ等らに  
 與あたへて曰いひけるは、爾なん曹ぢら皆みな此この杯さかづきより飲のめ、此これは新しん約やくの  
 我わが血ちにして罪つみを赦ゆるさん。こて爾なん曹ぢら及および衆おほくのひと人の爲ために流ながす  
 所ところのものなり、爾なん曹ぢら如か此こおこなひて飲のむ毎ごとに我われを記おぼ憶え  
 えよ。

(次に會師は唱ふべし)

願ねがくは主しゆの平へい安あん常つねに汝なんぢら等らと共ともに在いまさんことを。

(次に會衆アグナスデイを誦ひ又は唱ふべし)

アグナスデイ

世の罪を除き給ふ神の羔なるキリストよ、我等を憐み給へ。

世の罪を除き給ふ神の羔なるキリストよ、我等を憐み給へ。

世の罪を除き給ふ神の羔なるキリストよ、主の平安を我等に與へ給へ。

(次に分餐式を始むべし。會師麵包を配する時左の如く云ふべし。)

取りて食せよ、是は汝の爲に與へ給ひしキリストの體なり。

(會師杯を附す時左の如く云ふべし)

取りて飲めよ、是は汝の罪の爲に流し給ひし新約の血なり。

(陪餐者を復席せしむる時會師左の如く唱ふべし)

願くは我等の主イエスキリストの體、其の尊き血は眞實の信仰に於て汝等を強め、窮なき生命に至るまで護り給はんことを。

(若し中間にて聖別したるもの盡きなば會師は前記の

聖別文を讀みて更に他の麵包或は葡萄酒を聖別すべし。配餐終りて後會師残れる聖品を恭しく覆ふべし。次に皆立ちてナンク、デイミツチスを謠ひ又は唱ふべし。

ナンク、デイミツチス

主よ爾はその言に従ひて僕を安全に世をば逝せ給ふ。そはわが目既に萬民の前に設け給ひし救を見たればなり。

これ異邦人を照さん光なり、また爾の民イスラエルの榮なり。

聖父と聖子と聖靈に榮光あれ。

元始にありし如く現今もあり世々窮なくあるべし。  
アーメン。

(次に左の如く感謝すべし)

會師 エホバに感謝せよその恩恵は深し。

會衆 主の憐恤は永遠に絶ゆることなし。

會師 全能の神よこの有益なる恩賜を以て我等を養ひ給ひしことを感謝し奉る。願くは主の聖恵によりて我等を強め、我等益々神を信じ、益々互に相愛する。ここを得させ給はんことを、聖子我等の主イエスキリストによりて希ひ奉る。主は聖父と聖靈と

共に永遠に一の神にして世々に活在于して統御め  
給ふ。

會衆 アーメン。

(次にベネデイカムスを謠ひ又は云ふべし。)

ベネデイカムス

會師 願くは主汝等と共に在さんことを。

會衆 願くは主汝の靈と共に在さんことを。

會師 主を頌榮奉るべし。

會衆 感謝は神に歸せんことを。

(次に會師左の祝禱をなすべし。但し哥林多後書十三章

十四節の語を代用するも可也。祝禱終りて會衆は黙禱  
すべし。)

祝禱

願くはエホバ汝を恵み汝を守り給へ。

願くはエホバその顔を以て汝を照し汝を憐み給へ。

願くはエホバその顔を上げて汝を顧み汝に平安をた

まはんことを。

(會衆は謠ひ又は唱ふべし。)

アーメン

病者の聖餐典に就て。

(神の聖語によりて教へられ又慰めらるゝ病者に聖餐

典を執行せんとする時は、牧師聖詩第八十篇か又は第  
 廿五篇と約翰傳第三章十六節とを誦へて、禮典を始む  
 べし。次に備へられたる卓子の上に麵包と葡萄酒とを  
 置きて、主の祈禱をなし、式文を讀むべし。式文は「汝心に  
 て主を仰げよ」より全文を用ふるも可也。

懺悔式(聖晚餐禮典執行の準備式)

聖晚餐の禮典は所定の様式に基きて一年間に少くとも  
 四度即ちクリスマス、復活日、聖靈降臨日及び聖靈降  
 臨日とクリスマスとの間の日曜日に執行すべし。牧師  
 は禮典執行の日時を定めて講壇より之を報告すべし。  
 禮典に陪せんと欲する者は準備式執行前に之を牧師  
 に報告すべし。陪餐者の氏名は教會の帳簿に記載し置  
 くべし。長老は姓名記載後直に其の帳簿を調査し、若し  
 陪餐を禁止し若くは教會より除名せられたる者の氏  
 名を見出さば、其の人が教會に於ける地位を恢復する  
 まで陪餐せしむべからず。此の式は成るべく聖晚餐禮



典執行の前日に行ふべし。而して陪餐者は必ず出席すべし。始に説教又は勸話をなして、各自深く自己を顧み、謙遜と眞實なる心とを以て罪科の懺悔をなす必要を勸むべし。然る後會衆は起ち、會師聖卓の側に立ちて云ふべし。

愛する兄弟姉妹よ。我今知らざることなき全能の神の聖前に於て、汝等の良心に訴へ、左の事を問ふ。  
 汝等は生れながら罪人なるのみならず、自己の本分の怠慢及び邪惡なる思想、希望、言語、行爲によりて、汝等の主なる神と救主とを憂へしめ、また怒らせ奉りしこと

汝等は聖前より退けられて、窮なき刑罰に處せらるべき者なる事を眞實に認めて心より之を悔るや。汝等の認識眞に如斯ならば、然りと曰ひて懺悔すべし。  
 イエスキリストは罪人を救はんが爲に世に降り給ひしこと、又その聖名を信する者は罪の恕赦を受くることを眞實に信するや。汝等其の罪と咎とより救出さるゝことを切に願ふや。又我等の天の父はイエスキリストの故によりて、汝等を恵みて罪を赦し、不義を潔め、己れの爲に汝等を聖別し給ふ聖旨ありと信するや。汝等の信仰眞に如斯ならば、然りと曰ひて懺悔すべし。

汝等謹みて神の聖前に歩み、勉めて各種の悪しきことを捨て、正事を行ひ、日々益々その心を聖くして世を涉らんが爲に、己を聖靈の祐導に委ぬることを深く決心するや。汝等の目的眞に如斯ならば神及び會衆の前に然りと曰ひて懺悔すべし。

我等恭しく跪きて共に懺悔の祈禱をなすべし。

(次に皆跪きて共に云ふべし。)

最憐み深き全能の父よ、我等聖前に屢々罪を犯せしことを謹みて懺悔し奉る。我等は公然に行爲によりてのみならず、又私かに汚れたる心の思念と情慾とを以て

多くの罪を犯せり。主は悉く之を知り給ふも、我等明白に之を曉りて懺悔すること能はざりし。我等は今此等多くの罪を認めて眞に悲み衷心より之を悔ひ、主より罪を赦され愆を蔽はるる者の受くべき福祉に與り、主が悲む者に約束し給へる慰藉を受けんことを偏に願ひ奉る。又今より罪の行爲を改めて、一層正く世を送らんことを決心す。主よ願くは聖靈の助により、此の決心を實行することを得さしめ給へ。

殊に願くは今聖餐に與らんとする我等をして、饑渴が如くに朽ちざる麵包と活ける水とを慕ひて、正しく

準備を成さしめ、又主より恵に恵を加へられて信仰を固くし、猶能く主を愛し、主に事へ、且つ兄弟に對する愛の行爲によりて、主に對する我が信仰と愛とを顯すことを得さしめ給へ。

在天の父の神よ我等を憐み給へ。世の贖罪主なる神よわれらを憐み給へ。聖靈の神よ我等を憐みて汝の平安を我等に與へ給へ。アーメン

(次に會師起ちて左の如く云ふべし)

汝等今如斯その罪を懺悔したるが故に我基督教會の牧師たる職權を以て、凡て眞に悔改め眞心より信仰し、

聖靈の聖助によりて、今より行を改め敬虔の生涯を送らんとする人々に、聖父と聖子と聖靈の聖名によりて罪の赦免を宣言す。されど剛腹若くは偽善にして悔改めず、罪の生涯を猶續けんとする者には、罪の赦されざること、不義は遂に必ず罰せらるべきこと、を神の聖言と我等の主イエスキリストの聖名によりて、我は又之を示す。故に聖惠の日の盡きざる中に、悪しき業を棄て、眞に罪を悔改め、信仰を以てキリストに立ち歸らんことを勧め、且つ祈る。

神よ願くは我儕を愍みて、その罪より我儕を救出し、且

つ之これを赦ゆるし、我われ儕らを凡すべての善ぜんに堅かたくなして、遂つひに窮かぎりりなき生命いのちに至いたることを得えさせ給たまへ。我われ等らの主しゅイエスキリストに因よりて希こひねがひ奉たてまつる。

(次につぎにくわいし會かい師し會かい衆しゅう共ともにしゅ主の祈いのりを唱となふべし。會くわいし衆しゅうは立たつべし、次につぎにへいあん平安の特ごく禱たうをなし終をはりて祝くわく禱たうを唱となふべし。)

大正三年八月十五日印刷  
大正三年八月十八日發行

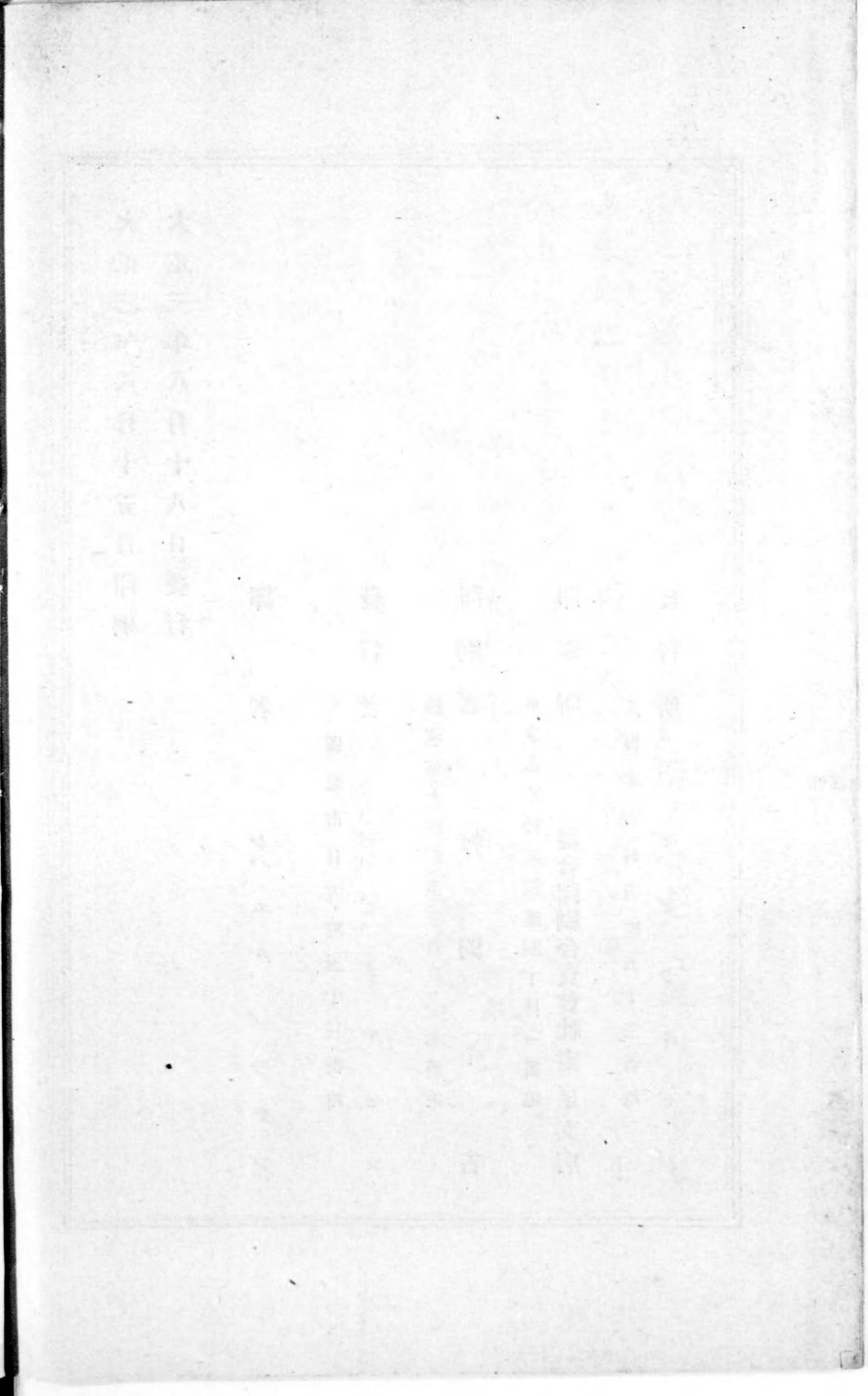
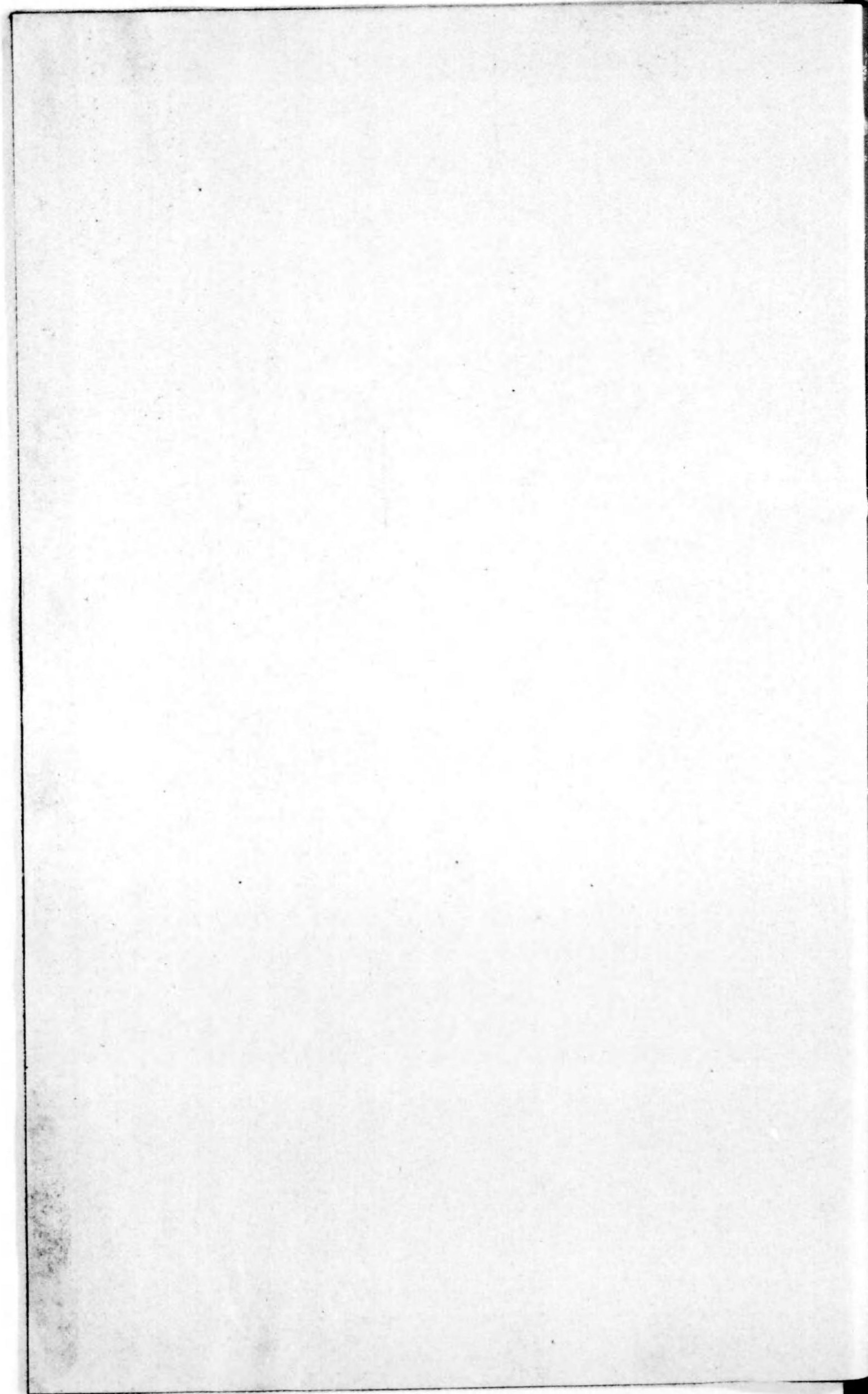
譯者 シ、エル、ブラウン

發行者 久留米市日吉町五十三番地  
ゼ、ピ、子ルセン

印刷者 横濱市太田町五丁目八十七番地  
村岡平吉

印刷所 東京市京橋區銀座四丁目一番地  
福音印刷合資會社東京支店

發行所 久留米市日吉町五十三番地  
ゼ、ピ、子ルセン



終

